

最近の県内景気動向

平成14年5月31日
日本銀行水戸事務所

～総じて、未だ低迷の域を脱せず～

最近の管内経済動向をみると、雇用・所得環境が厳しい中で、個人消費が盛上がりや欠くとはいえず、なお底固さを保っているが、公共投資や設備投資等が低調を続けているほか、ここへきて下げ止まりの兆しがみえる製造業の受注・生産も浮揚力に欠けるなど、総じてみれば未だ低迷の域を脱していない。

【消費】

◎4月の大型小売店の売上

売上げは低調を続け、▲5.2%と前年比マイナス幅を拡大した(3月▲1.3%)。品目別には、食料品、家庭用品、雑貨等が不振を続けたほか、3月春物中心に好売行きとなった衣料品が、4月中旬以降の気温低下に足を引っ張られる形で前年割れとなった。

◎4月の乗用車新車登録台数

6ヶ月振りに前年比プラスとなった(前年比+4.3%)。車種別には、主力の普通車(同▲8.6%)は低調を続けたものの、小型車が人気新型車の好売行きに支えられて+11.9%と高い伸びとなった。

◎4月の家電販売

テレビがサッカーW杯開幕を控え大幅な増加となっているほか、パソコンも値上げ実施にも拘らず堅調な動きを続けており、年明け後一時失速気味となっていた売上げが、ここへきてやや盛返している。

◎4月のレジャー関連状況

ゴールデンウィーク期間中(4/27～5/6)の県内主要行楽地(13ヶ所)への入込み(県警調べ)が、今春オープンした「アクアワールド・大洗水族館」の集客効果等もあって、前年を1割方上回った。また、5・6月の旅行取扱いは、海外が東南アジア等の近場を中心に前年をやや上回っている一方、国内はほぼ前年並みに止まっている。

【公共・住宅投資】

◎4月の公共工事請負額

つくばエクスプレス関連の大型工事もあるが、端境期としてはまずまずのレベルとなった(前年比+54.5%)。もっとも、国や地方公共団体の財政が厳しい折柄、先行き予算縮小に伴う発注減は避けられないとみられている。こうした状況下、建設関連業者では、民間建設工事の落込みも加わって、手持ち

工事が減少しているほか、同業者の経営破綻に伴う焦付き債権の発生もあって、苦しい経営を余儀なくされている。

◎3月の新設住宅着工戸数

主力の持家(前年比▲3.7%)が引続き前年を下回ったほか、昨年盛上がりが見られた分譲(同▲69.7%)も大幅に減少したことから、全体では前年を1割方下回った(同▲8.8%)。

【生産動向】

鉱工業生産・出荷(7年=100、季節調整済)は、このところ一進一退を繰り返しているが、3月については、一般機械、電気機械等を中心に大幅な減少となった(生産指数前月比:▲5.1%<原指数前年比▲9.5%>、出荷指数前月比:▲12.1%<同▲12.5%>)。こうした生産の抑制により、在庫は減少(在庫指数前月比:▲4.3%<同▲8.4%>)を続けており、調整が進展している。4月の産業用電力消費量(大口+高压A)は、前年比マイナスが続いていた鉄鋼、化学がプラスに転じたほか、電気機械、非鉄金属もマイナス幅を縮小したことから、全体では1年振りに前年を上回った(前年比:3月▲5.5%→4月+2.2%)。

【企業倒産】

最近の企業倒産(負債総額100万円以上)件数を見ると、建設業が一頃に比べ落ち着いた動きとなっているが、製造業やサービス業等が高水準となっている。また、負債総額も、年明け後大型倒産が多発したことから、前年を大幅に上回って推移。なお、4月は件数(22件)が前年(23件)を僅かに下回ったものの、負債総額(149億円)は、大型倒産が3件発生したことから、前年(54億円)を大幅に上回った。

茨城県主要経済指標

(前年比、%)

	13年度	14/2	14/3	14/4
大型小売店売上高	▲3.9	▲7.0	▲1.3	▲5.2
乗用車新車登録台数 [除く軽]	▲3.9	▲10.7	▲9.4	4.3
[含む軽]	▲4.6	▲7.5	▲9.0	5.3
公共工事請負金額	▲8.0	▲73.3	0.4	54.5
新設住宅着工戸数	n. a.	▲9.0	▲8.8	n. a.
[持家]	n. a.	▲10.6	▲3.7	n. a.
産業用電力消費量	▲4.1	▲5.8	▲5.5	2.2
[大口電力]	▲4.2	▲5.4	▲5.4	3.3
鉱工業指数 [生産]	-	94.1	99.6	94.5
鉱工業指数 [出荷]	-	85.1	99.1	87.1
鉱工業指数 [在庫]	-	84.9	84.3	80.7
有効求人倍率(倍)	0.63	0.50	0.52	0.52
倒産件数(件)	235	19	16	▲4.3